

川口宿・鳩ヶ谷宿日光御成道まつりと伊奈サミット

会員 櫻井國敏(川口市郷土史会相談役)

今年の11月11日(日)に『川口宿・鳩ヶ谷宿日光御成道まつり』が開催される。この催しは、平成23年10月の川口市と鳩ヶ谷市の合併1周年記念として始まったもので、今年は3回目を迎える。第1回目は平成24年11月11日、第2回目は平成26年11月9日に行われたが、このときは徳川宗家18代徳川恒孝さんと、俳優の松平健さんを迎えて実施された。パレードは、川口駅前～錫杖寺と、鳩ヶ谷支庁舎～地蔵院の約数キロの間で行われ、①小中学校、企業などの鼓笛隊の行進に始まり、②川口の民俗芸能の「獅子舞い・囃子・神楽」や「川口鳶の木遣り」の披露、③川口ゆかりの関東郡代伊奈氏代々の面々、西福寺三重塔を寄進した千代姫(将軍家光の長女)、芝長徳寺住持で足利学校庠主を務めた龍派禅珠、植木の祖・古田権之丞、不二道の小谷三志、江戸城大奥お年寄り瀧山、日本近代彫刻の大熊氏広など30余名の歴史行列、④最後に八代将軍吉宗の社参を参考にした大行列で、今回は将軍役に俳優の原田龍二さんを迎えて実施するが、街道のパレードには、振付師の真島茂樹さん指導により創られた御成サンバの快適なリズムが流れる。

日光御成道は、江戸幕府が中世の鎌倉街道中道を基として、寛永年間(1624～44)頃整備した日光道中の脇街道で、本郷追分から川口宿・鳩ヶ谷宿を通過して幸手宿に至るまでの48kmの道のりで『岩槻道』と称呼され、天明5年(1785)以降は『日光御成道』と称呼されたという。この街道は将軍の日光社参の往復路に利用されたものだが、中山道、日光道中といった主要街道の間に位置しているため、この両者の街道間を東西に結ぶ細道が地域一帯の生活経済道路、災害等の主要街道が不通の場合は迂回路の役割も担っていた。また、徳川吉宗が江戸近郊の桜の名所として整備した飛鳥山も沿道にあり、その先に川口善光寺と、観光とお寺参りの道としても活用されていた。

日光社参は、元和3年(1617)に2代将軍秀忠が行ったことに始まり、徳川家康の命日である4月17日に17回行われた。将軍の社参を見ると3代家光が9回と一番多く、2代の秀忠が3回、4代家綱が2回、8代吉宗・10代家治・12代家慶は各1回である。第5代綱吉は30年と長く将軍であったにもかかわらず、一度も社参していない。社参に莫大な資金を必要としたためか、曾祖父に尊崇の念が薄れていたからなのか謎である。将軍社参の行程は、4月13日に江戸城を発ち岩槻、古河、宇都宮の各城で1泊し、16日に日光に入る。将軍が参詣をすませたのち18日帰途につく3泊4日で江戸に帰るのが恒例だったという。

なお、第3回日光御成道まつりの特別事業として、まつりの一週間前の11月4日(日)午後1時30分よりスキップシティで『伊奈サミット』が開催される。第1部は「首長が語る伊奈氏の魅力」をテーマに、東京学芸大学の大石学教授をコーディネーターに、伊奈氏ゆかりの川口市・伊奈町・つくばみらい市の三首長と高崎経済大学の西澤淳男教授らによるパネルディスカッションが行われる。第2部は、川口市郷土史会50周年記念事業として大石学先生による「伊奈氏と日光社参」をテーマにした記念講演が行われる。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

今後のイベントスケジュール

*申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- | | | |
|-------------|----------------------------|---------|
| ○10月21日 (日) | 見学会 かみつけの里古墳祭りとお観音塚古墳 | <前号で紹介> |
| ○11月 7日 (水) | プレミアム講座「太平記絵巻をめぐる博物館のあゆみ」 | <今号で紹介> |
| ○11月16日 (金) | まち歩き研究会「武蔵陵墓地参拝と紅葉の甲州街道歩き」 | <今号で紹介> |
| ○11月17日 (土) | 講演会 「古代日本の超技術」 | <今号で紹介> |

時宗の総本山 遊行寺、江島神社、称名寺を訪ねる

2018 (平成 30) 年 9 月 12 日に見学会 45 名が参加

平成 30 年 9 月 12 日(水)、これまでの酷暑と打って変わった気持ちよい朝、参加総員 45 名で予定時刻よりも早くバスで出発することができました。最初の見学場所である通称「遊行寺」。正式には藤沢山無量光院清浄光寺という時宗の総本山です。住職の案内で本堂内にあがらせていただいております。

本堂内は 45 名全員入っても広く感じて、さすが東海道最大級の木造本堂です。その後、宝物館にも入り、休館日にもかかわらず説明をしていただきました。

昼食場所はヨットハーバーが見える江の島です。その前に、賑やかな仲見世通りを通って、江島神社(辺津宮)の奉安殿を訪ねました。ここは日本三大弁財天の一つである妙音弁財天が安置されていることで有名です。その後、湘南の海を眺めながら、横浜市金沢区へ向かいました。「称名寺」の境内は、平泉の毛越寺、いわき市の白水阿弥陀堂と並ぶ浄土式庭園が



あります。ここでも境内の金堂前で庭園を眺めながらの住職から説明を受けました。そこから隧道を歩いていくと「神奈川県立金沢文庫」の正面玄関です。展示室に入ると、埼玉県鴻巣市の放光寺にある安達藤九郎盛長座像が迎えてくれました。『特別展 安達一族と鎌倉幕府』開催中で、埼玉県立歴史と民俗の博物館からも、蒙古襲来絵詞(模本)が展示されていました。当日は交通渋滞にもあわず、参加者の協力でスケジュールをスムーズにこなすことができました。

(山本洋正記)

「新編武蔵風土記稿」の”見どころ”、”読みどころ”を解説

2018 (平成 30) 年 9 月 7 日にプレミアム講座開催 77 名参加

長く当館の学芸員～副館長をされた後、県立文書館館長を務められた杉山正司さんが今春より当館に戻られています。第2回のプレミアム講座は、「新編武蔵風土記稿」の“見どころ”、“読みどころ”を知ることにお話をいただきました。参加者は 77 名にのぼり、熱心な学びの時間を過ごしました。

(中略) 今回の講座は、美術展示室で 10/28 まで展示中の「新編武蔵風土記稿と文化財」に因って行われ、展示室での観覧に参考になりました。さらに、関連内容は、5 年前に刊行された博物館ブックレット第一集として、館の売店で販売されています。早速求めておられる参加者も見受けられました。

(西本記・詳しくはブログをご覧ください)

下名栗諏訪神社 獅子舞ならびに博物館他見学

お祭り研究会 8月26日に開催

飯能駅9時30分に9名が集合。最初は能仁寺。(中略) 涼しい飯能市立博物館へ。歴史展示室・身近な自然・飯能と西川材が常設展示され、企画展で直近3年間の飯能市の遺跡発掘調査結果が展示されており、素敵な博物館で大変良かった。11時30分頃、バスで30分ぐらいの諏訪神社へ向かう。神事式(例大祭)が行われており厳かに雅楽の音が趣を感じる。名栗川が流れ、せせらぎの音が静かに聞こえる山あい、本殿の周囲は杉並木の見事な森に囲まれている。下名栗の獅子舞は昭和62年に埼玉県無形民俗文化材に指定され、氏子の中に組織された獅子舞保存会によって五穀豊穰・国家安泰・氏子繁栄・悪魔祓いを祈願している。(中略) 12時40分頃から棹がかりの舞が奉納される。時間は約70分間。14時過ぎからは、女獅子かくしの座で約120分の長時間です。舞っている獅子・花笠も、そして見学者も疲れる。大変です。(中略) クライマックスの白刃の舞がありますが、16時に切り上げる。森林のなかでの獅子舞い堪能しました。



(元木記・詳しくはブログをご覧ください)

第25回 鎌倉街道を訪ねて 羽根倉道・番外編その1

古道探索倶楽部 9月29日に開催

大型台風接近で朝から雨模様、参加者も予定の35名から22名になりました。見学時間は午前中で切り上げることにする。それでも元気に南与野駅を定刻通り出発! 今回から3回に分けて、もう一つの鎌倉街道と云われる古道を板橋区赤塚まで探索するのだ。

城北信金西堀支店西側に日向地区の保存会が建てた堂屋に4体の石仏が並び、そのうち3体が道標も兼ねて早瀬道・蕨道・与野道などと刻まれており、横の丁寧な説明板と合わせて考えると古の鎌倉街道を彷彿させる。細い裏道を通り西堀氷川神社へ、畠山重忠家来真取氏が鎌倉時代に氏神として創建したとされ、台地の上にある宮とも称される。次の医王寺では戦時供出を免れた梵鐘を鑑賞、沢山の梵字が刻まれており寄進した当時の人々の願いが偲ばれる。(中略) 内木酒造に到着、さいたま市に4件ある醸造元で一番古い安永4年(1774)創業だ。(中略) 本来の昼飯予定地田島氷川神社(下の宮)へ向かう、年に三回市指定文化財田島の獅子舞が開催される場所である。田島御嶽神社の煌びやかな建物を参拝。鹿手袋の寶泉寺に向かい12時に到着。市内初期の3猿笠付庚申塔寛文9年(1669)市指定文化財を覗く。武蔵浦和駅で解散したのは12時30分前であった。皆さんお疲れ様でした。



(寺内記・詳しくはブログをご覧ください)

◆武蔵陵墓地(多摩御陵)参拝と紅葉の甲州街道歩き◆

2018(平成30)年11月16日(金)に「まち歩き研究会」

《日時》2018年(平成30年)11月16日(金) 10時00分~15時00分 約2時間の散歩になります

《集合》JR中央線 高尾駅 南口改札出口 10時 集合 小雨開催(各自の判断)

《費用》交通費各自

《持物等》飲み物・お弁当など持参(武蔵陵横の綾南公園で休憩します)

《概要・行程》武蔵陵墓地(旧:多摩御陵)は皇室墓地として大正天皇・皇后と昭和天皇・皇后の4陵が造営されています。付近は武蔵陵参道のケヤキと甲州街道のイチョウという紅葉の並木が続きます。甲州街道では一里塚跡や空襲の跡も残す八王子追分道標を見学。最後は千人町で千人同心ゆかりの歴史の碑を訪ねます。さらに八王子宿(駅)まで歩けば風情を残す幾多の建物を発見できます。行程は、高尾駅⇒武蔵陵墓地⇒参道⇒南陵公園(昼食)⇒甲州街道⇒一里塚・道標・千人同心碑⇒八王子宿(駅)(途中バス便あり)

《申込・問合せ》①なるべく「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。

②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③FAX: 048-470-2758 も可能

古代日本の超技術

～古代鉄と日本刀～

古代日本の職人技には、現代の最先端技術を超えるものが少なくありません。今回は半導体物理の最先端を研究される一方、各分野の古代技術を解明されてきた講師をお招きし、「ものづくり日本」の源流となる“ご先祖様の智慧”を理解する好例として、古代鉄と日本刀の秘密を解き、彼らが示した自信、誇り、責任感、そして謙虚さを学びます。

講師 **志村史夫 先生** 静岡理工科大学名誉教授

日時 2018年11月17日(土) 13:20～14:50

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン(東武野田線)
大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 300円

今回は、通常より
10分早い進行に
なります

お申し込みは**往復はがき**に、①講演会名②住所③氏名④電話番号⑤会員の方は会員番号を明記。返信面にも住所・氏名を忘れずに記入し、11月1日(木)までに〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切前でも定員150名を超えた場合はお断りすることがあります。当日は往復はがきの返信面をお持ちください。

* 「友の会ホームページ」の「申込フォーム」からも参加申込できます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

太平記絵巻をめぐる博物館のあゆみ

～ 収蔵・研究・展示・修理 ～

埼玉県指定文化財「太平記絵巻」は、当博物館が収蔵する資料の中でも目玉となる美術品の一つです。全12巻のうち、5巻分が当館の所蔵となっていますが、これらは最初からそろっていたわけではありません。博物館へ絵巻が収蔵されてゆく過程や、その後の研究と展示がどのように行われてきたか、そして今後長く伝えてゆくための修理事業などについての貴重なウラ話を、太平記絵巻の内容や特徴とともに解説します。

講師の池田さんは、日本美術史がご専門。昨年度も当講座で特別展関連の明治の装束について解説をいただきました。今年度は美術工芸品を見る、知る楽しさを伝える工夫に特に注力され、館の活動を身近に感じさせてもらえるでしょう。

講師 池田 伸子 氏 当館主任学芸員

とき 11月 7日(水) 13:30～14:30

ところ 当館講堂

ご参加無料

申込方法: 他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

締切: 10月31日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。* 「友の会ホームページ」の「申込フォーム」からでも参加申込できます。